

浜田市立浜田公民館

1 浜田地区の概要

人口	8045 人	世帯数	4190 世帯	高齢化率	37%
学校	保育所 3、幼稚園 1、小学校 3、中学校 1				

浜田公民館は市の中心部、市街地に位置し、城下町浜田、市役所を中心とした官庁街で、人口約 8,050 人、世帯数約 4,190 の地域である。

2 浜田市立浜田公民館の概要

(1) 地域の課題

- ・港町浜田は山陰でも有数の漁港であるが、近年は漁獲量も減少し経済も低迷している。
- ・少子高齢化が進み、ピーク時より 1,500 人減少、市街地の空洞化が目立ってきている。
- ・地域住民の絆、団結力が薄く、行事の進行も苦慮しているが、公民館推進委員、ボランティアの方々に助けられている。

(2) 課題解決に向けた公民館の戦略

- ・自主サークル活動の支援
- ・水平分業型の事業への組織改革
- ・健康づくり事業への積極的な事業展開
- ・自然災害の予防活動
- ・子ども対象事業の拡大
- ・他地区の畑を借りて農作業の体験事業の実施
- ・浜田っ子に魚を身近に感じてもらうために、学校と連携し「ちくわ作り」の継続
- ・公民館運営推進委員、ボランティアとの連携強化
- ・漁業への理解を深めるため魚食推進事業「目指せ！親子で BB マイスター」を展開
- ・小学生と「わかめ」養殖に参画

3 特色のある取組

魚を使って「ちくわ」をつくろう

(1) 事業のねらい

自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方を身に付け、探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。また、自己の生き方を考えることができるように、総合的な学習の一貫として、「ふるさと浜田」で水揚げされた魚介類をより身近に感じ、探求することができる。

(2) 具体的な取組

ア 事業の経緯

原井小学校の 5 年生では、総合的な学習の時間において「ふるさと」をテーマに学習を進めることとし、その学習の一環として、10 年前に「ちくわ作りを体験できないだろうか。」と浜田公民館に依頼があった。原井小校区内には県内有数の水産基地である浜田漁港があるにもかかわらず、「魚よりも肉が好き。」「魚を触ったことがない。」という児童が増えている実態があるからだと、当時の担任の先生が話しておられた。

児童の実態などから始まったちくわ作りだが、最近でこそスムーズに作業が進むようになったが、始めた当初はわからないことだらけで、失敗の連続だった。また、児童の活動の時間は 2 時間程度と言われていたので、その時間内で生の魚をすり身にし、焼き、そして食べるところまでを経験させることは、簡単なことではなかった。

イ 日時、場所、対象

2月中旬の午後に、5年生児童と小学校の家庭科室で調理をし、外に設置したバーベキューコンロで焼く。ボランティアの人数は、家庭科室では1テーブルに3人、屋外には1コンロに1人がつき、総勢20名くらいで毎年行っている。

ウ 内容

(ア) 事前打ち合わせ

1月中旬に打ち合わせ会を行い、校区コーディネーター、担任教諭、学校支援担当教諭、ボランティアの中心メンバーと共に、昨年の反省なども確認しながら、進め方を調整する。

(イ) 当日の午前中

9時30分に公民館にボランティアは集合する。

児童も午後作るが、それだけでは足りないなので、下味をつけたすり身を作る。

(ウ) 魚を三枚におろす

児童はまず、使用している魚の種類や量などの話を聞き、浜田漁港水揚げのアジを三枚におろす。

(エ) 竹に付ける

すり身ができたら、今度は60cmくらいに切った竹に巻き付けていく。焼きむらができないように、均等な厚さで付けていく。巻き方は、まずサランラップをひき、適度に分けたすり身を乗せて、適度な大きさに広げる。その上に竹を乗せてラップごとにまき付け、均等な厚さに形を整えてからラップを外す。

(オ) 焼く

形が整った人から順次焼きに入る。焦げないように回しながら焼くが、すり身の中に入っている気泡が膨らんでくるので、竹串で膨らみに穴を空けながら焼いていく。

(カ) 食べる

子どもたちは、自分が作ったちくわを屋外で食べる。

ちくわが焼ける匂いを嗅いだ他の学年は、5年生になったら出来る事へ期待。

(3) 成果と課題

ア 成果

「今まで魚が苦手だったけれど、好きになった。」「魚をおろしたのは、初めてだったけど浜田の魚のことが分かった。」などの感想が聞かれた。ふるさと浜田で水揚げされた生の魚に直接触れ、ちくわを作ることは、児童の心に残る体験となっている。

イ 課題

1年間、「漁業」をテーマに総合的な学習を行ってきたが、年間の学習の関連性をさらに考えながら、より地域との関わりが深まるような学習にしていく。

(4) 今後の方向性

地域と学校が協力し、同じ思いで取り組むことにより、ちくわ作り体験が継続されている。安全面はもちろん、反省を基に年々よりよい体験活動になるように考えている。総合的な学習をより効果的に、そして、子どもたちが「ふるさと浜田」の良さを知る機会とするためにも、今後も、地域の方や浜田の魚との触れ合いができるちくわ作りの活動を継続し、漁業をテーマにした新たな学習も学校と共に取り組んでいきたい。



[アジを3枚におろす]



[ちくわを焼く]



[ちくわを食べる]